

AO入試 1期・2期〔総合型選抜〕 ファッション社会学科「小論文」の書き方

1. 小論文にはタイトルと氏名を必ず書くこと。
2. Microsoft Word のページ設定を 1行 40文字、1ページ 36行にすること。
3. 各段落の冒頭は、必ず 1文字分字下げすること。また、一つの段落はおおよそ3～5行で構成するように心がけ、長くなりすぎないように注意すること。これは、読みやすさを向上させるためである。また、書き手の思考を整理させる利点もある。
4. 句読点（「、」と「。」、または「、」と「.」）は、小論文全体（引用等も含める）で統一させること。
5. 文中において、必ず「引用」や「参照」を明示すること。また、小論文の最後に「引用・参考文献一覧」を付けること。

正しい引用・参考文献の書き方

◆なぜ「引用・参照」「参考文献」は必要なのか

引用や参照を明示するのは、自分が調べたことと自分で考えたことを区別し、両者の関係を論理的に示すためである。また、引用元や参照元を読者が直接確認できるようにするという目的もある。単なる形式的な決め事ではなく、小論文の内容と深くかかわるものであることを意識すること。

引用や参照は、誰かが書いた文章だけを意味するものではなく、統計データや自分以外の誰かが作成した図表も含むものである。

◆引用・参照・参考文献の示し方

引用や参照を示す場合には、「誰が」、「いつ」、「どこ」に書いたものかが分かるように「著者名」と「出版年」と「ページ」を引用情報として文末に記さなければならない。さらに、小論文の最後に「参考・引用文献一覧」を付け、より詳細な情報を示すこと。ただし、新聞記事から引用した場合は、本文で出典を示し、参考文献一覧に含める必要はない。

また参照とは、自分が調べたこと（誰かが書いた文章）を自分の言葉でまとめなおして書くことである。

①短い引用の場合（おおよそ1～2行程度）

引用部分を「」（鍵かっこ）で括り、（著者名 出版年：ページ）を加えること。

[例]

大学のレポート執筆において気を付けるべきことは「自分の言葉と他者の言葉を明確に区別し、自分の意見の独自性を主張すること」だとされている（井下 2014：90）。

②長い引用の場合（おおよそ2行以上）

引用の前後各1行ずつをあげ、かつ左側を全角で2文字分下げし、引用であることを明示すること。引用部分の文末に（著者名 出版年：ページ）を加えること。

【例】

小論文執筆において気を付けるべきことを井下千以子は次のように説明している。

重要なことは、自分の言葉と他者の言葉を明確に区別し、自分の意見の独自性を主張することです。他者の言葉、つまり、文献に書かれたことや情報検索ツールを使って調べたことと、自分の意見（言葉）を区別して述べるルールが、引用です。（井下 2014：90-1）

このように「自分の考え」と「他者の考え」は明確に区別しなければならない。

③新聞記事からの引用の場合

本文で出典を示し、参考文献一覧に含める必要はない。

【例】

米フェイスブック（FB）や同社の写真投稿アプリ「インスタグラム」、メッセージアプリ「ワッツアップ」などで4日、アプリにアクセスできなくなるなどの大規模な障害が起きた。（『朝日新聞』2021.10.6 朝刊）

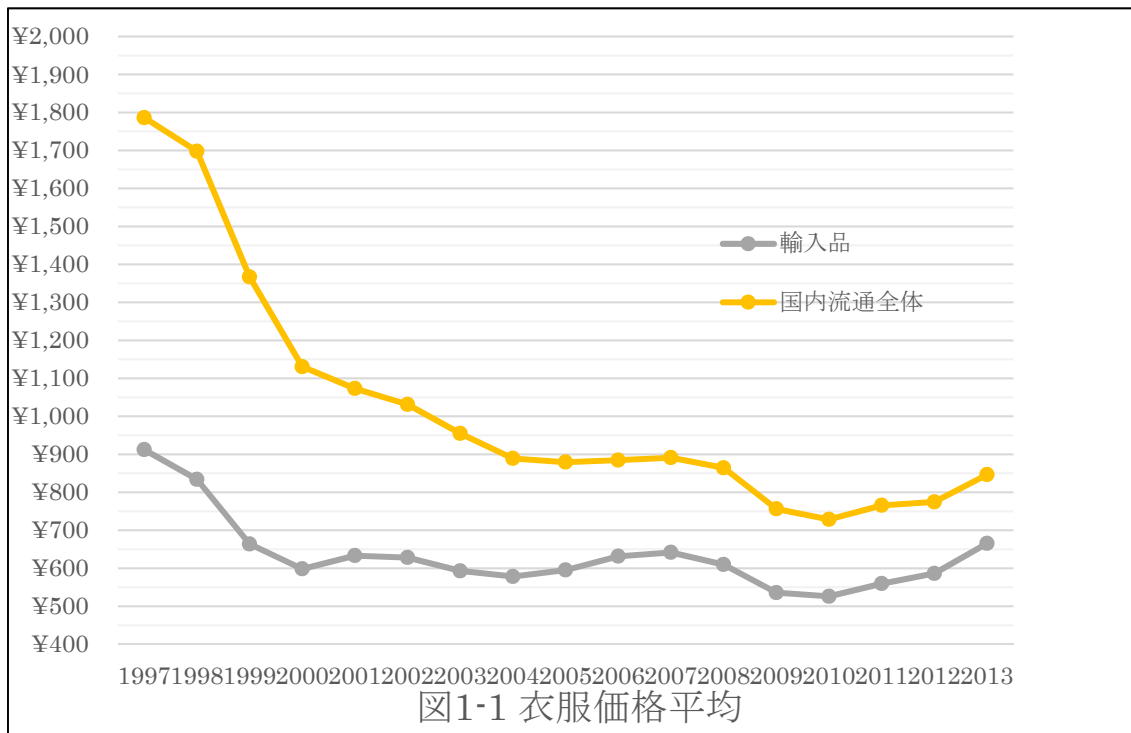
④図（写真やグラフ）・表の引用の場合

図（写真やグラフ）や表には、図表番号とタイトル、出典を明記すること。また、図の場合にはタイトルを下部に、表はタイトルを上部に付けること。

公表されているデータをそのまま引用した場合は、「出典：著者名（出版年）」を加える。公表されているデータを基に作成した場合は、例のように「出典：著者（出版年）をもとに作成」などと記す。

グラフや表の読み方に注意が必要な場合にはその旨も記すこと。また、「参考・引用文献一覧」に出典文献の詳細な情報を記すことを忘れないこと。

[例]



「出典：日本化学繊維協会(2016)をもとに作成」

(注)平均額は衣類(下着含む)の金額ベースの供給額(消費額および輸入額)を数量ベースの供給点数(国内供給点数および輸入点数)で割り算出した。

⑤「参照」の示し方

参照の場合でも、どこからどこまでが参照で、どこからどこまでが自分の文章なのかを明示する必要がある。参照部分の文末に(著者名 出版年)を加えること。

[例]

井下は小論文執筆において気を付けるべきこととして「自分の言葉」と「他者の言葉」を区別する必要があると述べている(井下 2014)。

⑥「引用・参考文献一覧」の示し方

小論文の最後には、アルファベット順に整理した「引用・参考文献一覧」を必ず付けること。示すべき情報は、書籍の場合は「著者(編者)名」、「出版年」、「『書籍タイトル』出版社」である。また、ウェブサイトやブログなどを引用・参照した場合には、閲覧した日付と URL を追加すること。

[例] 小論文の最後に下記のようなリストを付ける

引用・参考文献一覧

井下千以子, 2014, 『思考を鍛える小論文・論文作成法 (第2版)』慶應義塾大学出版会.

日本化学繊維協会, 2016, 『繊維ハンドブック』日本化学繊維協会.

日本社会学会, 2018, 『社会学評論スタイルガイド (第3版)』, 日本社会学会ホームページ
(2019年10月2日取得, <https://jss-sociology.org/bulletin/guide/>).